

生計をたてる。絵—売る—金銭—毎日—食べる。

成功 「腕前」の手まねをして、鼻頭の上に拳を持って行って、「鼻高」即ち「天狗」
「よし」を表わすがこの場合左右両手の拳で更に鼻高にするがよい。



政治（政府）五指の指頭を右にさした左手掌を下に向け、胸の右脇辺りにびったりつけて、その手甲の上に右腕の肘を載せ、その右手五指の指頭を上

にさし掌を左側に向ける。「掌どる」と云う意味。

性質 「性格」と同じ手まね。
聖書 キリスト（十字）——書物。

製造 「造る」と同じ手まね。

生存 生きる——在る。

精神 「心」と同じ手まね。

贅沢 「寛大」の要領で腹を広く見せて、金銭を表わした手を何度か繰り返して前へさし出す。ふんだんに金を使うこと。

成長 右手の掌を右肩に置いてから、上へまっすぐにあげて行く。脊丈が伸びて行く様。

晴天 「明るい」「昼」の手まねの要領で、両手の掌を頭の上辺りで、上向けにしてさっと左右に離す。

生徒 習う—人々

政党 政治—連盟

稅務署 人々—収入—一部（左手の掌の上に斜めに右手人差指の指頭で線を描く）—集める（金銭を表わした両手を斜め前左右から胸もとに引き寄せる）—役所

整理（整頓）五指の指頭を前方にさし掌を

左向にした右手。五指の指頭を前方にさし掌を右向にした左手。この両手を胸の前右寄りに或程度の間隔を置いて平行にならべてから、それをそのまま胸のちょうど前に置き替え、更に左へ置き替えて行く。

乱雑になった物件をきちんと並べ置く身振
生理日 「羽織」の手まねをする。以前大阪市立雙咄学校の上級の女生徒の間で、何にか約束的に用いられていた手まね。

成年 大人——になる。

青年 若い——人々。

誓約 (イ) 神(人差指で天をさす)——約束
(ロ) 約束——拇印(左掌の上に右手の親指の指頭を押しつける)

西洋 右手の人差指を曲げて指頭を眼に向け、その指をクルリと輪に描く、青い眼を表現したもの。「西洋人」なら、それに「人々」をつけ加えればよい。

勢力 「力」と同じ手まね。即ち拳にした手の腕を曲げて力瘤をして見せる。

世界 五指の指頭を前方にさした掌を左向にした右手、五指の指頭を前方にさし掌を右向にした左手、この両手をかなり広い間隔を置いて平行に向い合わせて、共に五指をまるく彎曲させると一箇の大きな球(地球儀)を両手に持った姿態になる。その両手をそのまま、手首を軸にして前から下へ球を回転させるような両手の運動。即ち地球の自転。

悴 「息子」を見よ。

席 「椅子」と同じ手まね。

石灰 白い—粉。

石炭 黒い—石。

責任 (イ) 右手の五指を彎曲させた掌を右肩の上にかぶせるように置く。肩に負う、即ち責任である。(ロ) この手まねを左右両手で(即ち右掌は右肩に左掌を左肩に置く)表わ